

# 徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議 第1回「おどる」まち部会 会議録（要旨）

日 時 平成28年10月28日（金） 午前10時～12時  
場 所 徳島市役所8階庁議室  
出席者 委員8名、担当部局、事務局

## 1 開会

## 2 部会長・副部会長あいさつ

（部会長）

良いまちにするために皆さんご意見をお持ちと思うので、できるだけ生かせるように、集約する形で提言をとりまとめた。

活発な議論をお願いしたい。

（副部会長）

会長をサポートしていく。

## 3 「おどる」まち部会における検討内容について

（事務局）

「おどる」まち部会の分掌を説明

部会の進め方（分掌範囲が広いので、2回に分けて、今回は「まちがおどる」の部分について検討すること）及びスケジュールを説明

策定までに開催できる会議の回数、時間が短いため、既にまとめている意見や発言しきれなかった意見等は事務局までメール等で直接ご意見いただきたい。

いただいたご意見は、メールや郵送で共有を図り、今後の議論に生かしたい。

※ 質問及び意見なし

## 4 基本政策「まちがおどる」について

（事務局）

「まちがおどる」は、魅力的な都市空間の形成に主眼を置いた政策である。

「まちがおどる」において目指す10年後の姿を説明

「まちがおどる」という枠組みで整理しているが、各施策は、政策の枠を超えて密接に関連しているものがある。現在は事務局案のとおり整理している。

※ 質問及び意見なし

## 5 これまでの取組成果について

### (事務局)

第4次徳島市総合計画における取組状況（まちがおどる）をもとに、当初目標を上回った指標、下回った指標等を説明

### (委員)

施策「総合交通体系の確立」の部分に駐車場の項目がない。駅周辺の駐車場対策がうまくいってないと思う。実は中心市街地には、たくさん駐車場があるのに稼働していない。10年前の調査では、稼働率は平日40%、休日60%であった。地区ごとに地上部の駐車場の稼働率を調べてほしい。

かつて、駐車場マップを作り、案内したところうまく稼働した実績もある。駐車場の整備や案内などで混雑や渋滞の緩和につながると思う。

### (部会長)

駐車場の案内システム等を整備していくという部分は将来の話であるが、稼働率等の実績・現況も把握しておくべきという意見である。

### (委員)

阿波おどり会館の利用者数やひょうたん島周遊船の乗船者数は目標を上回っているのに、全体の観光客入込数は目標を下回っている。この背景は分析しているか。

### (担当部局)

インフラ、宿泊施設が不足している。観光客入込数の大きな部分を占めている阿波おどりの集客は横ばいであり、他の施設の魅力アップができていないことや、パッケージで紹介できていないことなどが考えられる。

### (部会長)

阿波おどりに依存し、他の恒久的な施設やイベントの整備が進んでないようである。

### (担当部局)

観光客入込数のカウントは、観光施設として指定された場所への入込数であり、徳島市の集計では阿波おどりの人出を足しているが、藍場浜のイベント等は入っていない。

### (部会長)

指標の立て方としてこれでいいのか検討が必要である。

(委員)

計画の中に「川の駅」が入っていないが、今後、推進していくのか？

(部会長)

この資料は、前回の総合計画なので掲載されていないが、次の計画にどのように載せていくか提言すればよいのではないか。

(事務局)

徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料（施策方針編）では、50ページで川の駅について記載している。

## 6 今後の取組方針について

(事務局)

徳島市まちづくり総合ビジョン検討資料（施策方針編）をもとに、基本政策「まちがおどる」に位置づけられた各施策の概要・取組方針・成果指標（目標値）を説明

(委員)

指標の目標値の設定について、現状から数%上がるものから、90%上がるようなものもある。達成できなかった場合、途中で方向転換するのか、単に「できなかった」で終わるのか、途中で予算を増やして取り組みを強化するのか。罰則をつけるとまでは言わないが、本当に数字に近づけるような行政をしていくのか。

(事務局)

総合ビジョンは2階層とすることにしており、計画期間が10年のものと3年のものがある。進捗状況を見ながら、3年の推進プランの方を見直ししながら進めていく。大きく目標と隔たるようなこととなれば、見直しを含めて考える。

(部会長)

10年で社会情勢も変わるだろうし、総合ビジョンとしては、基本的には数値を掲げて、見直しながら進めていかざるを得ないだろう。第4次総合計画においても、かなりの部分は達成できている。

(委員)

企業であれば目標を達成しないと倒産する。それくらいの気持ちでやらなければならない。

(部会長)

達成を目指していただく。できるだけ達成するように努力してほしいということ

提言としたい。

**(委員)**

施策7-1「都市ブランドの創出」であるが、「都市ブランド」といわれても市民にとってわかりにくい用語なので市民が分かるよう「都市ブランド」などの言葉に用語の解説をつけたり、分かりやすい表現にしたりするべきである。「アイデンティティ」とか、「シビックプライド」も同じ。

また、成果指標に「徳島市に住み続けたいと思う市民の割合」が70%以上とあるが、地方創生総合戦略において、平成31年に70%以上という目標としている。平成38年も平成31年と同じ70%では低いのではないか。

**(事務局)**

他都市の同様の調査結果等から見ても、70%というのがほぼ上限と思われ、80%、90%というのは非現実的である。70%まで上昇させて、それを維持するという方向で考えている。

**(委員)**

高齢化等で、住み続けたいというより、他に動けないという人も増えてくると思う。

**(部会長)**

移動できないという制約の中でも、このまちに愛着を持ち、住み続けたいと思って住んでもらえる割合を高めていくということだと思う。

**(委員)**

籠屋町のマンションに入っているのは板野、藍住あたりの富裕層である。中心市街地のブランド性が認められている。市内にいたら車がいない。中心市街地に居住区を作る必要がある。社会増を目指すしかない。

**(部会長)**

居住地区を中心に集めるのは重要である。施策7-2「計画的な都市づくりの推進」にも関わる話で、居住機能の集約誘導を強化するべきという意見である。

**(委員)**

現在徳島市には、新町西地区、音楽・芸術ホール、ごみ処理施設などの大きな問題がある。これらの動向によって、施策や数字を変えていかなければならないだろうし、方向性が決まれば全然違う構想になるのではないか。そのたびに修正をかけていく必要があるものと思う。

**(部会長)**

流動的な部分が残されている。状況が変わったら、直ちに見直した方が良いという意見である。

**(担当部局)**

政策は変化していくものである。推進プランについては、将来ビジョンと切り離してどんどん見直していき、柔軟かつ機動的に対応できるような形で進めていきたい。

**(委員)**

各施策に何項目か取組方針が記載されているが、成果指標と対応していない。何が達成できていて、どこに問題があるのか、これでははっきりしない。どの指標でどのように達成状況を図るのか、対応関係をはっきりさせた方が良いと思う。

**(委員)**

何が達成できているのかのチェックの仕方については同感である。

シティプロモーションで都市ブランドの創出となると、市民が誇り・愛着を持つということとともに、市外の人がどう見ているかを評価する指標を入れるべきであろう。成果指標として「シティプロモーション関連施設への来場者数」とあるが、これは観光施設であるし、ふるさと納税も徳島市に関係ある人がするものであろう。例えば、徳島市に住んでみたい、行ってみたい、という人の割合とかを入れてみてはどうか（調査にあまりお金がかからないのであれば）。

また、施策7-2「計画的な都市づくりの推進」の成果指標にJR四国の乗車人員があるが、取組方針には鉄道の乗客を増やす取り組みが入っていない。取組方針には、バスのことを書いているので、バス乗降者数などが適切だと思う。

**(委員)**

同じ施策で、バスの移行・再編路線を増やすという指標があるが、これは結果ではなく作業の話なので、指標としては適切ではない。人口も減少しているので客数は減るとしても、利用率などを指標にしなければ地域公共交通が整備されたかどうか測れないと思う。是非見直してほしい。

**(委員)**

昔は児童公園や動物園に平日に行けたが、今は子供の遊び場、カップルが過ごせる場がない。博物館も遠くにあるので土日に車でないといけない。中心部に持ってくることで、ブランド性になるのではないか。若い人も住めるまちづくりが必要である。

**(部会長)**

子供の遊び場を整備しなおすべきという意見と、博物館等の教育施設へのアクセス

が不十分であるという意見である。子育て・教育ということで「つなぐ」部会にも関連する意見であり、調整を図りたい。

**(委員)**

中心市街地の活性化には、都市の顔となるものがなければいけない。とくしまマルシェやトモニSunSunマーケットなどのイベントがあるが、駐車場に車を止めると時間を気にしなければならない。鉄道やバスで来れば時間を気にせず滞在できる。朝から街に来て1日回遊できるように、駐車場を充実させる方法ではなく、自転車や公共交通機関を中心としたまちづくりについて考えるべきと思う。

**(部会長)**

2つ意見をいただいたと解釈する。

1つ目は、マルシェ等の民間主導の取組を発展させることについて取組項目に入れてはどうかという意見。

2つ目は、現在駐車場2時間無料などの取組はあるが、滞在時間を増やすためにはそれでは不十分で、公共交通や自転車など他の交通手段を利用する、自動車に頼らないまちづくりを進めるという施策が必要という意見と伺った。

**(委員)**

コミュニティバスとはどういうものか。

**(担当部局)**

市バス・徳島バスの通っていないところで、地域の方が自主的に運営しているバスのことである。なお、市も補助はしている。

**(委員)**

鳥取のぐるぐるバスは、100円均一で、小さなバスできめ細かな路線となっている。徳島市では、高齢者の方はバスの無料パスをもらっているが、気持ちとして少しでも払った方がいいという声もある。このような仕組みを徳島でも取り入れられないか。

**(部会長)**

コミュニティバスには、成功例もあれば失敗例もある。国の補助金を頼るというような方針は立てるべきではないが、進めていくことを検討しては、という意見である。

**(委員)**

コミュニティバスについては、まちづくり協議会で10年前に意見があったが、経費が掛かりすぎるということで、市からストップがかかった。10年前とどう変わったのかははっきりしないと取り組めないのではないか。

(部会長)

10年前に比べるとバス路線はずいぶん再編されている。人口減少で乗客も減っているが、再編などの効率化により赤字は縮小している。コミュニティバスを市が運営するのは難しいと思うが、住民が主体的に関わって取り組めば可能性はあると思う。

(委員)

施策7-2「計画的な都市づくりの推進」の成果指標の、人口の増減率であるが、高齢化に伴い、どうしても自然減はある。ここは、社会増だけに絞った方が施策の方針としてはよいのではないか。

(部会長)

人口の増減となると、出生数の向上という意味も入ってくる。ここでは、いかに転入者を増やすかという社会増減に主眼を置くべきという意見である。

(委員)

施策7-1「都市ブランドの創出」のふるさと納税の目標10億円というのは、難しいのではないか。何か画期的な取組があるのか。

(事務局)

10億円というのは、かなり意欲的な数字である。本市では、平成27年度から見直しを開始して、平成28年度は前年度の5～6倍の寄附をいただいている。全国には10億円を超えている自治体も20以上ある。これまでの取組に加えて、返礼品にかかると地元事業者等の顔が見えるようにして、徳島の良さを売り込んでいきたい。

(部会長)

市から都会に行く人が多いので、そういう人にとってふるさと納税がしやすくなれば、理想的な姿かと思う。

(委員)

「水都とくしま」というが、どうして水都なのか分からないという意見もある。市民は徳島を水都と認識しているのか。

(委員)

新町川は昔運河として発展したといった歴史的な背景があるが、それが周知できていない。水都の説明くらいは新町川に設置したらよい。また、イメージづくりが大切で、歴史で言えば駅前に蜂須賀小六の像を作るなど見て分かるようにしなければ。

**(事務局)**

「水都とくしま」が浸透していないことは感じている。平成 23 年からシティプロモーションに取り組んでおり、阿波おどり、水都、歴史、特産品の 4 つの魅力を戦略的に情報発信している。人の心に響くためには、「水都と阿波おどり」「水都と歴史」などこれらを組み合わせた物語として P R していく必要があると考えている。今後さらに工夫していきたい。

**(部会長)**

「水都とくしま」が市民の中で共有できていない。外に向かって水都としての魅力を発信すべきである。そういう意味では、観光の魅力発信のところに、川の駅を整備して川から眺めていただいて水都の魅力を実感していただく、という方策が指標として必要なのではないか。同じ「物語」を共有するのが大事であり、それを具体化し、共有できるような施策展開が必要である。

**(委員)**

文化といえば、東洲斎写楽は徳島藩の絵師であったということが判明している。しかし、徳島には写楽の博物館・石碑などが無い。インバウンド向けにもなるものであり、ぜひ徳島の文化施設で取り扱ってほしい。

**(部会長)**

施策 7-4 「文化財の保存と活用」に絡んでくる意見であろう。

**(委員)**

施策 7-3 「観光・交流の促進」の成果指標の観光客入込数であるが、阿波おどりの客と他の客の両方を増やす必要がある。阿波おどり以外の魅力の向上も大事である。指標も分けた方が良いのではないかと。

**(部会長)**

阿波おどり期間中と平常時で分けることはできるのではないかと。全体的な宿泊施設の維持という意味でも平常時の観光客数は重要である。

**(担当部局)**

平成 27 年の阿波おどり期間中の入込客数は 123 万人で、そこにロープウェイ、とくしま動物園、阿波おどりの会館、徳島城博物館の通年の利用者数を足したものを観光客入込数としている。阿波おどりとそれ以外で分けることは可能である。

**(部会長)**

阿波おどり期間外に閑散としているのを何とかするためにも分けた方がよいだろう。

**(委員)**

リピーターは核になるものにしか来ない。現状では阿波おどりとマチアソビくらいである。阿波おどりを年2回する、という持論を持っているが、市として屋外・演舞場での阿波おどりを実施するつもりはないか。

**(担当部局)**

はなはるフェスタや、県が秋にアスティでしていたりするが、まだまだPR不足と思う。

**(部会長)**

はなはるフェスタとかイベント時は盛り上がるが、普段との落差が大きい。イベントは増えているが普段が閑散としている。通年のにぎわいづくりがここでのポイントだと思う。

**(部会長)**

予定の時間が来たので本日の議論はここまでとする。

言い残した意見等有れば、事務局までメールするか、次回の会議で頂きたい。

## **7 その他**

**(事務局)**

次回の「おどる」部会の日程を報告